

「備えあれば 憂いなし」

校長 前田 達彦

消防署の方の立ち合いのもと、避難訓練を実施しましたが、真剣に、そして迅速に対応できたでしょうか。

今回の訓練は、地震が起こって、その影響で「火災」が発生したという想定で実施しましたが、「天災」や「災害」は、「忘れた頃にやってくる」（天災は忘れた頃にやってくる）という言葉がありますが、私たちは常に災害等に対する緊張感と心構えを忘れてはならない、ということです。加えて、この地域に住む私たちにとって忘れてはならないことは、平成3年6月3日、大火砕流によって43名もの尊い命が奪われたこと、その祈りの日が先週6月3日に行われたばかりであるということです。

「備えあれば憂いなし」という言葉があります。日頃の準備が大切であるという言葉です。いざという時、予期せぬことに遭遇した時に、まずは自分の命を守り（自助）、そして身近な人の命を守る（共助）、こうした、常に自助・共助の精神を持った人であってほしいと思います。

これは各自の心がけ次第であると思います。そういう意味でこの避難訓練は今話をしたようなことを確認できる、とても重要な学校行事であり、そういう機会なのです。

皆さんの安心・安全を考えた時、この訓練も「週に一回、月に一回」くらい実施すればいいのかもしれませんが、現実には難しいので、ならばこの年に一回のこの機会を大切に真剣に取り組んで、しっかりと心に刻んでほしいと思います。

（避難訓練 校長講話より抜粋）